

平成26年度 病害虫発生予報 第2号

平成26年5月23日
栃木県農業環境指導センター

○水稲の縞葉枯病の多発生に注意しましょう

予想期間 5月下旬～6月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根拠
 - ・ 昨年の再生稲の発病株率は高い。(+)
 - ・ ウンカ類の越冬世代幼虫の発生量はやや多く、ウイルスの保毒虫率は過去10年で最も高い(+)。
- (3) 対策
 - ・ 発生の多い地域では、地域ぐるみで本田期防除を実施する。
- (4) 備考
 - ・ [防除対策のポイントNo. 17 \(水稲・縞葉枯病\)](#)、[平成25年度植物防疫ニュースNo. 32 \(水稲・縞葉枯病\)](#)をセンターHPに掲載中。

2 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量は少ない。(－)
 - ・ 向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。(±)
 - ・ 大麦ほ場で不稔粒の発生がみられ、二次伝染のおそれがある。(＋)
- (3) 対策
 - ・ 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。
 - ・ 赤かび病発生ほ場では、赤かび粒混入防止のために刈り分けを行う。
- (4) 備考
 - ・ [平成25年度植物防疫ニュースNo. 31 \(麦類・赤かび病\)](#)をセンターHPに掲載中。

3 いちご(親株) ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠
 - ・ 主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(＋)
 - ・ 向こう1か月の平均気温は低い～平年並の見込みで、発生にやや不適である。(±～－)
- (3) 対策
 - ・ 本ほで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち越さないために、本ほ作業後に親株の管理作業を行わない。
 - ・ 雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
 - ・ 気門封鎖剤やチリカブリダニ製剤[野菜類(施設栽培)]を活用し、有効薬剤を温存する。なお、一部の殺虫・殺菌剤は天敵に悪影響があるため注意する。
- (4) 備考
 - ・ [「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率93%、株率78%)。(±)
 - ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～低く、日照時間は平年並～少ない見込みで発生にやや不適である。(±～－)
- (3) 対策
 - ・ 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - ・ 生育に応じて葉かきを行い、幼虫を除去する。除去した葉は放置しないこと。
 - ・ 栽培終了時には、野外への飛散を防ぐため、全ての株を株元で切断後、ハウス内温度を40℃前後に1日平均7時間以上保持できる条件で3日間以上の蒸し込みを行う。
 - ・ 気温の上昇とともに増殖速度が早まるため、成虫にも効果の期待できるサンマイトフロアブル、アニキ乳剤、コルト顆粒水和剤等で防除する。
- (4) 備考
 - ・ 蒸し込み時の過度な高温は、施設内の器具を傷めることがあるので注意する。
 - ・ [植物防疫ニュースNo. 1 \(トマト・黄化葉巻病\)](#)、[「果菜類に発生したタバココナジラミの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

5 なし 黒星病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比：ほ場率41%)。(±～－)
 - ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～低く、降水量は平年並の見込みで、発生

- (3) 対策 ・にやや適する。(＋～±)
 ・芽基部病斑上の孢子形成抑制のため、ベルコートフロアブル、フルーツセイバー等を散布する。
- (4) 備考 ・「[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定](#)」を当センターHPに掲載中。

6 果樹 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・昨年のスギ・ヒノキ花粉量が多かったため、越冬量は多いと考えられる。(＋)
- (3) 対策 ・夜温が下がらない蒸し暑い日の日没時に飛来が多い。こまめに園内を観察し、飛来が認められたら防除する。
- (4) 備考 ・未発生園での過度な防除はハダニ類やカイガラムシ類等の天敵層を破壊し、他の害虫種の多発に繋がるため注意する。
 ・山林に隣接したり、過去に被害が大きかった果樹園では特に注意する。
 ・防除は夕方か早朝に行うと効果が高いが、早朝の薬剤散布時には近隣への騒音に注意する。

7 その他の病害虫

		現況	発生予想			現況	発生予想
水稲	いもち病	－	やや少	野菜類	アブラムシ類	－	やや多
	いぼとけ病	－	やや多		きく	白さび病	やや多
きゅうり	うどんこ病	やや少	やや少		アブラムシ類	やや多	やや多

○トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培の病害虫は次作に持ち越さず封じ込めましょう！

- ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病とキュウリ退緑黄化病を、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を媒介します。両害虫は野外で冬を越せないため、春以降に施設から飛散した害虫が野外で増殖し、次作の被害発生の原因となります。飛散を防止して伝染環を断つことが重要です。
- ・栽培末期の病害虫は、各種薬剤に抵抗性を発達させているおそれがあります。葉かき後の葉や残渣には病害虫が付着しているので、そのままほ場内外に放置すると抵抗性の病害虫の拡散につながります。



施設栽培では、施設内の害虫が野外に飛散しないよう、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込み等で防除しましょう。管理作業で除去した葉や栽培後の残渣は、ほ場内外にそのまま放置せず、適切に処分しましょう。

農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

- ☆ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。
- ☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報（予報期間5月17日から6月16日 5月15日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、低い確率60%です。3～4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	50%	40%	10%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	40%	40%	20%

NEWS & INFORMATION

- ☆「栃木県農薬管理指導士」養成研修（7月22・23日）、更新研修（7月22日）が開催されます。申込期間は6月2～27日となりますので、特に更新対象者の方はお忘れなくお申し込みください。詳しくは農政部経営技術課環境保全型農業担当までお問い合わせください。Tel(028)623-2286
- ☆県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農薬危害防止運動期間」とし、農薬の適正使用などについて啓発活動を行います。
- ☆「平成26年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」が発行されています。お求めの方は、栃木県農業者懇談会（028-647-2622）にお問い合わせ願います。

詳しくは[農業環境指導センター](http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html)（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）までお問い合わせください。病害虫情報発表のお知らせは「[農政部ツイッター\(@tochigi_nousei\)](#)」でも発信中です。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012